

第三者評価結果入力シート（乳児院）

種 別： 乳児院

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構

②施設名等

名 称： 社会福祉法人 康保会玉淀園
施設長氏名： 柴崎 順三
定 員： 50名
所 在 地（都道府県）： 埼玉県
U R L： http://www.kouhokai.or.jp/tamayodo_top

③実施調査日

開始日	2014/5/1
評価結果確定日	2015/1/16

④総評

<p>◇特に評価が高い点</p> <p>○養育・支援</p> <ul style="list-style-type: none">・災害リスクの高い場所から、より安全な立地に移り施設を新築し、子どもたちにとって安全性の高い環境を提供している。・小規模グループケアを実施し、養育の質を向上させるよう努めている。・自然豊かな周辺環境を活用し、時間をかけて散歩に出かけるなど、できるだけ自然に触れさせる機会を多く取るよう心掛けている。・菜園で、なす、ピーマン、トマト、白菜、ゴーヤなどを栽培し、その栽培の様子を見せたり、食事の際にできた野菜を提供したりしている。・天候が悪く外出できない日に、各ユニットのリクエストを聞きながら、簡単に作れるおやつを子どもと一緒に作っている。・アレルギーへの配慮として、除去食を提供する際に、献立にチェックのしるしを入れ、調理を行った人が盛りつけた食器にラップをかけそのラップに児童名を記入し、盛りつけた人、配膳担当者、ユニットでの提供者がその都度確認を行っている。・シーツ交換は毎日、布団干しは週1回、布団乾燥機やエアコン・扇風機・空気清浄機を使用し睡眠環境を快適に整えるよう努めている。・ユニットでの入浴は、職員が毎日一緒に入浴している。・投薬の際には、看護師が指示された薬を患児名簿に記入し、別の看護師が個人ごとの薬を用意し、さらにチェックする職員と投薬する職員も異なる者にし、投薬時には周りにいる職員にもわかるように子どもの名前を呼びながら誤薬がないよう投薬している。・ユニットと廊下を挟んだ位置に観察室がある利点を生かし、感染症に罹患した子どもを観察室にて看護しながら、職員の動線を区分するよう配慮し感染症の拡大防止に取り組んでいる。
--

- ・SIDS発症時の対応を含め、夜間の急変時に迅速かつ適切に対処できるよう、その日ごとに役割分担（心肺蘇生係、119番通報係、連絡係、記録係）を決め、係名の記載されたネームホルダーを着用し、常時備品（笛、携帯電話）を携行し業務に就いている。
- ・AEDを設置している。また、心肺蘇生訓練用人形も保有しており、月1回の訓練を実施している。職員には定期的に消防機関が実施する救命講習を受講させ、新任職員には入職時に教育を行っている。
- ・退所後のリスクアセスメントに取組み、アフターケアを行うよう努めている。実際に現在も里親も含めて4～5名へのフォローを行っており、退所後10年程度経過している保護者の支援が継続しているケースもある。
- ・親子関係再構築のプログラムに基づき、親子訓練室を活用し家庭復帰に至るよう支援している。親子訓練室利用にあたっては、不測の事態に至らないよう、児童相談所を交え保護者に同意を得た上で、夜間を含めた見守りを行っている。
- ・自主的に里親支援専門相談員を配置している。
- ・里親会が主体となって実施しているレスパイトケアの受け入れを行っている。

○家族への支援

- ・面会の受け入れ方法として、フリーの面会、職員の立ち会いを行う面会、ユニット内での面会、親子訓練室での面会などがあり、保護者の状況や要望に応じ様々な受け入れ方を工夫している。
- ・相談室という部門を設け、家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員、個別対応職員、心理療法担当職員が組織的に連携して相談援助業務に取り組めるような体制を整えている。

○自立支援計画、記録

- ・玉淀園の様式としてのアセスメントシートを明確に示し、アセスメントを実施している。

○権利擁護

- ・子どもの権利擁護規程、職員の倫理規程等の規程の整備に努められ、子どもの尊重や最善の利益の考慮を徹底するよう取り組まれている。
- ・部門ごとに作成した自己評価表や全国乳児福祉協議会が作成した「乳児院倫理綱領」「より適切なかかわりをするためのチェックポイント」を活用し、職員が日々の振る舞いを評価し、不適切な支援等が起こらないよう努めている。
- ・入所時の説明用資料として、保護者へのお願い、予防接種と子供の健康、SIDSから赤ちゃんを守りましょう、理念と基本方針、職員倫理規程、保育参加されるご父兄の皆様へなどを用意し、説明の上、写真掲載、散髪、予防接種等の取り扱いや承諾について書面にて確認している。
- ・被措置児童の虐待対応ガイドライン、被措置児童虐待・体罰・不適切な行為に関する対応マニュアルを整備し、予防及び発生時の対応を適切に行うよう取り組んでいる。

○事故防止と安全対策

・旧園舎地から、現在の高台に引っ越したことにより、土砂災害や河川氾濫によるリスクが無くなっている。また、転居を機に、備蓄用品の整備や、台風に備えたりリスク管理についても進められるなどしている。

・施設全体として危機管理に対する意識が高く、月1回の防犯・災害対応訓練のほか、危機管理ガイドラインを用いた研修会にも取り組んでいる。

○関係機関連携・地域支援

・寄居町広報誌への施設情報の掲載のほか、施設としての広報誌も発行するなど、施設情報を地域に広く周知する取り組みに、力を入れている。

・ボランティア受入について、規定を整備し、ボランティアコーディネーターを配置して、適切な受入を行っている。

○職員の資質向上

・各種研修会に参加した職員は、研修・講習会報告書にて報告を行っており、同報告書は施設内での研修成果の共有に活用されている。また、研修振り返りノートが各職種別、部門別に整理されており、施設長らによる確認と、助言指導が行われ、職員が研修の成果を確実に吸収するための取り組みがなされている。

・チームアプローチの視点から、心理職が、児童と、その児童の担当職員とに面接を行い、心理学的アプローチからの視点や助言を提供する「判定返し」という取り組みが行われている。これにより、児童担当職員が、1人で課題や悩みを抱え込んでしまうことを軽減している。

○施設運営

・運営理念や基本方針などについて、玄関ロビーに掲示し、来園者等も容易に目にすることができるほか、各ユニット等にも、同様の資料が備え付けられており、施設の理念や方針について、職員が常に意識し、共有できる取り組みがなされている。

◇改善が求められる点

○養育・支援

・実際には心理判定を実施し、心理所見を明確にしながら一部の子どもに心理的ケアを実施しているが、自立支援計画に基づく心理支援プログラムを策定し、そこに明示された個別かつ具体的方法による心理的支援が、心理的支援を必要とする対象児すべてに実施されるよう取り組んでいただきたい。

○自立支援計画、記録

・日々の積極的な改善の積み重ねによるものと推測するが、養育支援に従事する職員を中心として立案・評価する個別処遇方針と相談援助に従事する職員を中心として立案・評価する自立支援計画について、関連性を有する部分も見受けられるが、立案・評価の流れが分かれており、それぞれの計画の役割分担が明確になっていない印象を受けた。例えば、全く異なる役割なのか、上位下位の関係があるのか等について、それぞれの位置づけを明確にするなど、職員の支援の一貫性につながるような取組みに期待したい。

○権利擁護

・個人情報保護を除くプライバシーの保護について、乳児院においては難しい側面があるが、子どもたちが将来プライバシー保護の概念を身につけられるようにしていく視点を含め、玉淀園として乳幼児期の子どもの対しどのようなプライバシー保護に関する支援に取り組むかなどの検討を行い、方向性を明確にして欲しい。

・保護者の意向への配慮について、社会的養護関係施設の特性上難しい側面はあるが、意向を把握する方法、意向を分析・検討する方法、具体的な改善を行う方法等について検討を行い改善に向けて取り組んでいただきたい。

○施設運営

- ・ 職員の人事考課について、賞与等には反映されているが、評価の中身の提示はなされていないため、職員が確認できるよう整備することが望まれる。
- ・ 第三者評価等の結果を、職員全体で見直す仕組みの整備を進めて頂きたい。
- ・ 理事長、施設長、事務長、会計事務所が参加した「経営分析会議」が行われているが、その取り組みについて、記録の整理が十分でない。振り返りや、職員の閲覧、意識共有に資するためにも、同会議の記録整備がなされるよう期待したい。
- ・ 外部監査は実施されていないため、定期的な外部監査の導入を検討して頂きたい。
- ・ パート職員の休日の取り方について、勤務体制検討表にて調整が開始されたことから、施設全体のマンパワーのバランスを考慮して、適切な職員配置、勤務の組み合わせが実現されるよう、改善を進めて頂きたい。

⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

新しい園舎が出来て2年目を迎えました。建物と環境の整備は出来ましたが、現在は施設のソフト面（より良い運営方法）についての整備を図っているところです。

評価結果に基づき、改善が求められる点についても、すでに改善に向け動き出したところであります。まず、人事考課については、管理規程に明記している「成績考課」に基づいて規定を整備しました。

次に、職員研修についての研修計画策定作業を行います。まず、始めに全職員に対し研修アンケートを配布し、そのアンケート回答結果に基づいて各個人ごとに研修計画を策定します。また、以前実施していた研修規定を見直し、レベルに応じて必ず受講してもらう「必須研修」と自ら知識と技術を学びたいという姿勢からの「公募制選択型研修」（SDSを中心）とした研修に分け、スキルアップを図ります。受講後は報告書を提出して、その報告書に基づき総評書を受講者本人に渡します。そのような手順を得て、自分が学んだ知識や技術をどう施設業務に反映出来たか、施設が目指す目標をしっかりと把握出来ているかなどを総合的に評価して、成績考課につなげて行きたいと考えています。この改善事項は2月25日の職員全体会議の場でも職員に説明し同意を得ております。

今回初めて第三者評価を受審して改めて気づくことが沢山ありました。まだまだ整備不十分な点もありますが、より良い施設づくりを目指して、専門的機能を発揮し地域のニーズにあった子育て支援事業を展開していきたいと職員一同考えております。

⑥第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（乳児院）

1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
① 子どものこころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育んでいる。	b
② 子どもの遊びや食、生活体験に配慮し、豊かな生活を保障している。	b
③ 子どもの発達を支援する環境を整えている。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) ○特に評価が高い点 ・災害リスクの高い場所から、より安全な立地に移り施設を新築し、子どもたちにとって安全性の高い環境を提供している。 ・小規模グループケアを実施し、養育の質を向上させるよう努めている。 ・自然豊かな周辺環境を活用し、時間をかけて散歩に出かけるなど、できるだけ自然に触れさせる機会を多く取るよう心掛けている。	

(2) 食生活	第三者 評価結果
① 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。	b
② 離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。	b
③ 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。	b
④ 栄養管理に十分な注意を払っている。	a
(3) 衣生活	
① 気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。	a
(4) 睡眠環境等	
① 乳幼児が十分な睡眠をとれるように工夫している。	a
② 快適な睡眠環境を整えるように工夫している。	b
③ 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。	a
(5) 発達段階に応じた支援	
① 乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。	b
② 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) ○特に評価が高い点 ・菜園で、なす、ピーマン、トマト、白菜、ゴーヤなどを栽培し、その栽培の様子を見せたり、食事の際にできた野菜を提供したりしている。 ・天候が悪く外出できない日に、各ユニットのリクエストを聞きながら、簡単に作れるおやつを子どもと一緒に作っている。 ・アレルギーへの配慮として、除去食を提供する際に、献立にチェックのしるしを入れ、調理を行った人が盛りつけた食器にラップをかけそのラップに児童名を記入し、盛りつけた人、配膳担当者、ユニットでの提供者がその都度確認を行っている。 ・シーツ交換は毎日、布団干しは週1回、布団乾燥機やエアコン・扇風機・空気清浄機を使用し睡眠環境を快適に整えるよう努めている。 ・ユニットでの入浴は、職員が毎日一緒に入浴している。	

(6) 健康と安全	第三者 評価結果
① 一人一人の乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。	a
② 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。	a
③ 感染症などへの予防策を講じている。	a

<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>○特に評価が高い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投薬の際には、看護師が指示された薬を患児名簿に記入し、別の看護師が個人ごとの薬を用意し、さらにチェックする職員と投薬する職員も異なる者にし、投薬時には周りには職員にもわかるように子どもの名前を呼びながら誤薬がないよう投薬している。 ・ユニットと廊下を挟んだ位置に観察室がある利点を生かし、感染症に罹患した子どもを観察室にて看護しながら、職員の動線を区分するよう配慮し感染症の拡大防止に取り組んでいる。 ・SIDS発症時の対応を含め、夜間の急変時に迅速かつ適切に対処できるよう、その日ごとに役割分担（心肺蘇生係、119番通報係、連絡係、記録係）を決め、係名の記載されたネームホルダーを着用し、常時備品（笛、携帯電話）を携行し業務に就いている。 ・AEDを設置している。また、心肺蘇生訓練用人形も保有しており、月1回の訓練を実施している。職員には定期的に消防機関が実施する救命講習を受講させ、新任職員には入職時に教育を行っている。 	
--	--

(7) 心理的ケア	第三者 評価結果
① 乳幼児と保護者に必要な心理的支援を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>○改善が求められる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際には心理判定を実施し、心理所見を明確にしなが一部の子どもの心理的ケアを実施しているが、自立支援計画に基づく心理支援プログラムを策定し、そこに明示された個別かつ具体的方法による心理的支援が、心理的支援を必要とする対象児すべてに実施されるよう取り組んでいただきたい。 	

(8) 継続性とアフターケア	第三者 評価結果
① 措置変更又は受入れを行うに当たり、継続性に配慮した対応を行っている。	b
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰の支援を行っている。	a
③ 子どもが安定した生活を送ることができるよう退所後の支援を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>○特に評価が高い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退所後のリスクアセスメントに取組み、アフターケアを行うよう努めている。実際に現在も里親も含めて4～5名へのフォローを行っており、退所後10年程度経過している保護者の支援が継続しているケースもある。 ・親子関係再構築のプログラムに基づき、親子訓練室を活用し家庭復帰に至るよう支援している。親子訓練室利用にあたっては、不測の事態に至らないよう、児童相談所を交え保護者に同意を得た上で、夜間を含めた見守りを行っている。 ・自主的に里親支援専門相談員を配置している。 ・里親会が主体となって実施しているレスパイトケアの受け入れを行っている。 	

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者 評価結果
① 児童相談所と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	b
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	a
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b

(特に評価が高い点、改善が求められる点)
 ○特に評価が高い点
 ・面会の受け入れ方法として、フリーの面会、職員の立ち会いを行う面会、ユニット内での面会、親子訓練室での面会などがあり、保護者の状況や要望に応じ様々な受け入れ方を工夫している。
 ・相談室という部門を設け、家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員、個別対応職員、心理療法担当職員が組織的に連携して相談援助業務に取り組めるような体制を整えている。

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定		第三者 評価結果
①	子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	b
②	アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	b
③	自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	b
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録		
①	子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	b
②	子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	b
③	子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) ○特に評価が高い点 ・玉淀園の様式としてのアセスメントシートを明確に示し、アセスメントを実施している。</p> <p>○改善が求められる点 ・日々の積極的な改善の積み重ねによるものと推測するが、養育支援に従事する職員を中心として立案・評価する個別処遇方針と相談援助に従事する職員を中心として立案・評価する自立支援計画について、関連性を有する部分も見受けられるが、立案・評価の流れが分かれており、それぞれの計画の役割分担が明確になっていない印象を受けた。例えば、全く異なる役割なのか、上位下位の関係があるのか等について、それぞれの位置づけを明確にするなど、職員の支援の一貫性につながるような取組みに期待したい。</p>		

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者 評価結果
①	子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a
②	社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b
③	子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	c
(2) 保護者の意向への配慮		
①	保護者の意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	c

<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>○特に評価の高い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利擁護規程、職員の倫理規程等の規程の整備に努められ、子どもの尊重や最善の利益の考慮を徹底するよう取り組まれている。 ・部門ごとに作成した自己評価表や全国乳児福祉協議会が作成した「乳児院倫理綱領」「より適切なかわりをするためのチェックポイント」を活用し、職員が日々の振る舞いを評価し、不適切な支援等が起こらないよう努めている。 <p>○改善が求められる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護を除くプライバシーの保護について、乳児院においては難しい側面があるが、子どもたちが将来プライバシー保護の概念を身につけられるようにしていく視点を含め、玉淀園として乳幼児期の子どもに対しどのようなプライバシー保護に関する支援に取り組むかなどの検討を行い、方向性を明確にして欲しい。 ・保護者の意向への配慮について、社会的養護関係施設の特性上難しい側面はあるが、意向を把握する方法、意向を分析・検討する方法、具体的な改善を行う方法等について検討を行い改善に向けて取り組んでいただきたい。 	
--	--

		第三者 評価結果
(3)	入所時の説明等	
	① 保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	a
	② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて保護者等にわかりやすく説明している。	a
(4)	保護者が意見や苦情を述べやすい環境	
	① 保護者が相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	b
	② 苦情解決の仕組みを確立し、保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	a
	③ 保護者等からの意見等に対して迅速に対応している。	a
(5)	被措置児童等虐待対応	
	① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
	② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>○特に評価の高い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所時の説明用資料として、保護者へのお願い、予防接種と子供の健康、SIDSから赤ちゃんを守りましょう、理念と基本方針、職員倫理規程、保育参加されるご父兄の皆様へなどを用意し、説明の上、写真掲載、散髪、予防接種等の取り扱いや承諾について書面にて確認している。 ・被措置児童の虐待対応ガイドライン、被措置児童虐待・体罰・不適切な行為に関する対応マニュアルを整備し、予防及び発生時の対応を適切に行うよう取り組んでいる。 		

5 事故防止と安全対策

		第三者 評価結果
	① 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	b
	② 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
	③ 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	b

<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>○特に評価が高い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災関係について、防災倉庫内備蓄リストにて適切に管理されている。 ・ヒヤリハット事例、危機管理ガイドライン等の規定が適切に整備されている。
--

6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関等の連携	第三者 評価結果
① 施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	b
② 児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	b
(2) 地域との交流	
① 子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	b
② 施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	b
③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	a
(3) 地域支援	
① 地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	b
② 地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>○特に評価が高い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設広報誌「ほほえみ」を、行政機関、施設児童の保護者など、幅広く配布し、施設事業の周知を図っている。 ・ボランティア受け入れの手順等が、適切に定められている。 <p>○改善が求められる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設としては、要保護児童対策地域協議会メンバーへの加入が必要と考えており、加入に向けて働きかけていることから、早期に実現されることを期待したい。 	

7 職員の資質向上

	第三者 評価結果
① 組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	b
② 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	c
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	c
④ スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上に努めている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>○特に評価が高い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の事後報告、職員内での研修内容の共有化（ノート回覧など）の手順が、適切に定められている。 <p>○改善が求められる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修計画に、研修内容等が反映されていないため、反映されるよう改善が期待される。 	

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	第三者 評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
④ 運営理念や基本方針を保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	a
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	b
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	b
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
⑤ 事業計画を保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>○特に評価が高い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理念、基本方針などの周知が徹底されており、親御さんへの説明も丁寧になされている。 <p>○改善が求められる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が、事業計画に参加する仕組み作りを進めて頂きたい。 	

(3) 施設長の責任とリーダーシップ	第三者 評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	b
③ 施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	b
④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	b
(4) 経営状況の把握	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	b
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	b
③ 外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	c

<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>○特に評価が高い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設長の考え方については、「施設長の理念と責任」という文書にて、適切にまとめられている。 <p>○改善が求められる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部監査は実施されていないので、実施される体制構築を期待したい。
--

(5) 人事管理の体制整備	第三者 評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	b
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	c
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	b
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a
(6) 実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>○特に評価が高い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習生の受け入れ体制が適切に整備されている。 ・職員配置について、施設独自に里親支援専門相談員の独自雇用等を行っている。 	

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者 評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	b
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	c
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	a
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>○特に評価が高い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養育に関して、職員の姿勢の共通化の取り組みがなされている。 <p>○改善が求められる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記を評価する仕組みの整備が不十分なので、体制の整備を期待したい。 	